

指定管理者点検調書

【平成23年度】

＜府民牧場＞

1. これまでの主な管理運営の取組み

取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新規イベントやその他地域連携イベント等を増設するなど、サービス向上に努めた。 ・教育機関との連携し、職場体験等の積極的に受け入れた。 ・家畜関連業務の一部を畜産関係団体に委託し、民間活力の導入を図った。 ・地元施策への協力や地元イベントの実施等連携の強化を図った。 ・売り込み材料を提供し、メディアの積極的な活用を行った。 ・広告宣伝費の削減等の経費の節減に努めた。
------	---

(指定管理者に対する点検)

2. 点検内容

方針	項目	具体的提案	実施状況
平等利用が確保されるよう適切な管理を行うための方策	施設の設置目的及び管理運営方針	①家畜とのふれあいと子牛育成の2つの役割の実施	①イベント等を通じて家畜とのふれあいや憩いの場を提供した。また乳用子牛の適切な育成管理を行った。
		②法令遵守や社会貢献への取組の推進	②施設管理をはじめ業務にあたっては関係法令等の遵守に努めた。
	平等な利用を図るための具体的手法及び期待される効果	①障がい者や教育関係者の入場料の減免	①障がい者及び介助者については入場料等の免除、教育関係者へは半額などの減免を実施した。
		②バリアフリーや場内案内の充実	②ベビーカーや車いすの無料貸出の実施。対面対応やフロントマニュアルによる案内など高齢者や子どもたちにわかりやすいインフォメーションに努めた。
施設の効用を最大限発揮するための方策	利用者の増加を図るための具体的手法及び期待される効果	①多彩な広報活動の展開、平日利用の促進	①季節ごとのリーフレットや年間イベントちらしの発行。大阪府HP等での広報活動を展開し、また、学校等団体へPRによる平日利用の促進を図った。また、メディアに売り込み材料をFAX提供するなどメディアを積極的に活用した。
		②多彩な特別イベントの実施	②来場者のニーズに応えた動物(アルパカ、うさぎ、シーブツク、馬)により新規イベントも実施した。また、民間企業と連携してセミナー等を開催した。
		③地元との連携	③能勢町の子育て支援策へ協力の実施など町との連携強化を図った。
	サービスの向上を図るための具体的手法及び期待される効果	①酪農教育ファームとしてフィールドの有効活用	①中央酪農会議の「酪農教育ファーム」の認証を受けており、フィールドを活用した畜産に関する講習や職場体験の受入等を実施した。
		②動物管理に配慮したイベントの実施	②常時、動物の健康状態を把握しながら、乳搾り体験や子牛への餌やり体験など動物に関するイベントを実施した。
		③顧客満足度向上を図るための自主事業の展開(物販、バーベキュー、自主イベント等)	③新たな府民参加型イベントの企画立案や府の施策である「大阪産(もん)」に即し、バーベキューハウスでの能勢産和牛、府内産豚肉、地元野菜などを使った食事の提供及び府内地玉子を使ったアイスクリーム手作り体験を行った。
		④利用者ニーズの把握	④アンケートボックスやメッセージノートを設置し、利用者ニーズの把握に努めた。
		⑤禁止事項の事前周知、問い合わせ等へのマニュアル用いた同一観点での対応	⑤場内での禁止事項について案内看板、リーフレット、HPにより周知した。また、問い合わせや苦情等に対しては、マニュアルにより、同一観点での迅速かつ誠意ある対応に努めた。
	施設の維持管理の内容、適格性及び実現の程度	①美観を維持するための清掃管理と安全第一の施設管理	①スタッフの巡回点検を行い、美観の維持に努めるとともに、畜舎の徹底清掃や定期的な消毒を実施。また、木製遊具をはじめと施設の定期点検を実施した。
		②災害発生時等の的確な対応	②「大阪府民牧場危機管理マニュアル」等により災害、事故発生時の的確な対応に努めた。
③専門スタッフによる適切な動物管理		③動物管理については、専門スタッフにより「大阪府民牧場家畜飼養衛生管理マニュアル」「飼養管理計画表(日)」等に基づき適切な飼養管理を実施した。	

方針	項目	具体的提案	実施状況
※つづき 施設の効用を最大限 発揮するための 方策	※つづき 施設の維持管理の 内容及び実現の 程度	④公衆衛生面での 対策(動物由来感 染症、食中毒)	④動物由来感染症 対策として、動物 の健康管理の徹 底を図るととも に、ふれあい広 場等の体験場所 に手洗い場を設 置し、利用者に 手洗い・消毒の 励行を注意喚起 した。
管理に係る 経費の縮減に 関する方策	施設の管理運 営に係る経費、 納付金等の内 容	①管理運営経費 の所要額71,426 千円、子牛育成 経費6,000千円 (閉場を見据え た暫定運営)	①20年度の管理 運営経費は74, 047千円。21・ 22・23年度は 財政再建プログ ラム案により削 減(管理運営経 費71,426千円)
		②上記を実現す るため、勤務体 制の効率化によ る人件費の低減 やメンテナンス 経費の低減化	②23年度は閉 場を見据え、施 設・設備更新費 等を抑え低減。
		③府への還元 はないが、利益 は管理水準やサ ービス向上への 経費に充当。	③19年度以降 、入場等収入が 増加したが(22 年度のみ減収) 、施設の維持修 繕費や場内案内 看板の増設など サービスの向上 につながる経費 に充てた。
適正な管理 業務の遂行を 図ることができる 能力及び財政基 盤に関する事項	収支計画の内 容、適格性及び 実現の程度	①年間入場者 数を14万人に 設定	①19年度から 目標を達成して おり、23年度は 14.8万人
	安定的な運 営が可能となる 人的能力	①各部門に専 門職を配備した 適正な人員配 置	①畜産や家畜衛 生等の知識、技 術を備えた職員 を配備し、適正 な人員配置を行 った。
		②職員の各種 研修等による職 員の指導育成	②安全講和、重 機や農機具の技 術研修を受講し た。
安定的な運 営が可能となる 財政的基盤	①運営基盤と しても財務状況 の適正化	①(財)大阪府 みどり公社の財 務状況は、牧場 の運営上支障は ない。	
その他管理 に際して必要 な事項	府施策との 整合 ・府・公益事業 協力等 ・行政の福祉化 ・府民、NPOと の協働 ・環境問題への 取組み	①乳用子牛育 成配付事業の推 進	①府の畜産振 興施策である乳 用子牛育成配付 事業を推進する ため、「育成牛飼 養衛生管理マニ ュアル」等によ り、適切な管理 を行い、府内酪 農家の乳用雌牛 の後継牛を育成 した。畜産関係 団体と連携して 、子牛育成等家 畜関連業務の円 滑な推進を図 った。
		②府民との協 働	②民間団体等 との食育関連イ ベントの共催な ど他団体との協 働に努めた。(J A大阪食育ツア ー・雪印メグミ ルクによるパタ ー作り体験など)
		③自然環境の 維持及び堆肥の 販売促進	③家畜排せつ物 の管理を適正に 行い、周辺環境 の保全に努めた 。また、生産さ れた堆肥を場内 でのPRや地元と 連携して観光物 産センターでの 販売するなど販 売促進を図った 。
		④母子家庭等 就業・自立支援 センターを活用 し、法人におい て就職困難者の 雇用を実施する	④母子家庭就 業・自立支援セ ンターを活用し 、法人において 雇用を実施した 。
		-	地元の知的障 がい者施設と連 携して、清掃訓 練の場を提供し ている。
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動の展開や利用者のニーズに応えた多彩なイベントを実施した結果、目標を上回る14.8万人となった。 ・地元教育機関等からの職場体験の受入や畜産に関する講習会を実施され、畜産に関する知識の普及を図った。 ・子牛育成については、ノウハウを持った職員とマニュアル等により、適切かつ十分に育成がされており、府内酪農振興に貢献した。 ・大阪産(もん)、食育関連イベントとの連携が図られた。 ・収支面では、18年度の指定管理受託以後毎年継続的に収入増が図られており、大阪府からの管理委託料の削減額以上の収入増により施設の維持管理や利用者へのサービス向上等の経費に充てるなど、施設の管理水準向上に努めた。その結果として23年度はさらに入場者数が増加し、適正に運営管理を行った。 		